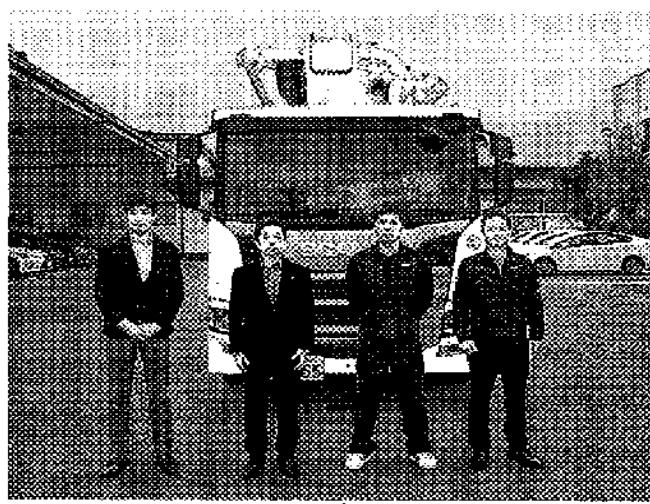


ヤマコン

ロングポンプ車を追加導入

生産性向上を後押し

コンクリート圧送業大手のヤマコン（山形市、佐藤隆彦社長）は、国内最大級となる垂直長45・5mのブームを持

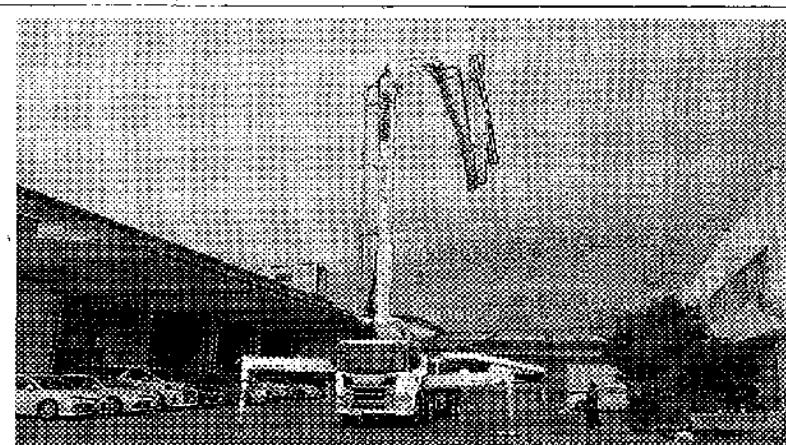


記念撮影する佐藤社長
(左から2人目)

つ「ウルトラロングブームコンクリートポンプ車」を追加導入した。同型車両の購入は2台目。今回は日本政策投資銀行（DBJ）のBCM（事業継続マネジメント）格付認定に基づく融資制度を利用した設備投資となる。今後、関東支店に配置し、首都圏の都市土木の現場などに投入する予定だ。

生コンを打設する際、ブームが届かない場合、足場の設置や鉄製パイプの接続による延長などの現場作業が必要になる。同社の主力として活躍

する「ウルトラロングブームコンクリートポンプ車」を追加導入した。同型車両の購入は2台目。今回は日本政策投資銀行（DBJ）のBCM（事業継続マネジメント）格付認定に基づく融資制度を利用した設備投資となる。今後、関



最大で建物14階相当まで対応可能

地下構造物の整備などで一層の生産性向上が期待できる。無線コントローラーにジョイスティックを採用し、ブームの操作性が向上しているほか、独自の油圧システムによる最適化されたスマートなポンピングも実現している。

車両は5段屈折長大ブームを備えているが、全長は12m、全幅は2・5m、全高は3・8mにとどまる。小型化して

いることから、通常の車両に

近い感覚で使用でき、機動力にも優れる。

車両は軽量化しているものの、国内の公道通行許可基準の20tを超える32・5tであるため、生産性向上の観点で緩和を申請し、車検を取得した。

納車した岡勇樹ブツマイスター・ジャパン社長は「コンパクトな車両で、垂直・水平・下方リーチに優れた長大ブームは日本の市場に適している。さまざまな現場の生産性向上に寄与するだろう」と語った。

26日に本社で開かれた納車式後、佐藤社長は「海外で標準となっている使い勝手のいい車両だ。前回は東京五輪特需を踏まえて新国立競技場の建設などに導入した。2台目は継続して需要がある関東圏の都市開発や国土強靭化の防災関連のほか、東日本大震災からの復興や多発する災害からの復旧など、多くの現場で活躍させたい」と期待を寄せた。